

## 令和3年度 たんぽぽ会第2回研修会 質問・感想とコメント

(講師：江夏 猛史 先生)

### 江夏先生より研修会に参加された皆様へのメッセージ

今回の勉強会は、オンラインでしたので伝わり辛い部分が多々あったと思います。可能であれば、リアルな勉強会をどこかで行える機会があると嬉しいです。短い時間ではありましたが、先生方の感想を見る限り、大切なことがずっと入ってきた方が多かったのではないかと思います。なぜ、そうなるかという、先生方が普段の幼児教育、保育の中で大切にしていることと、防災・減災教育で教えなければならないことが同じだからだと思います。先生方が、これまでの避難訓練で感じてきたもの「違和感」は、正しい感覚を持っているからこそなんだと思います。

ただ参加者のご感想にあったように、頭では理解できたとしても、自分たちだけで実践していくのはとても難しいと思います。常に「これでよいのか？」という思いと、これまでの「常識」にぶつかって迷い悩むと思います。その時は、是非遠慮せずご相談ください。僕たちもまだまだ道半ばですが、一緒に考え答えを探す手伝いはできます。ご希望の園には宜しければ一度伺いますがいかがでしょうか？また、訪問する場合は、コロナの血液検査を行ってから伺います。ご相談ください。

どうか、正しい保育・幼児教育を行って下さい。

### 研修会に参加された方からのご質問と江夏先生のお答え、御指導

青字①②③がチャットによる質問

赤字⇒が江夏先生の御指導

① 動画で見たユレタの代わりになる方法がありましたら教えていただきたいです。  
⇒揺れ体験は、園にあるもの(滑りやすい毛布やマット、シート等)を用いれば可能ですし、勉強会参加者の皆さんであれば、ユレタを無料で貸し出しますのでご相談ください。

#### ●マットによる揺れ体験について

厳密に地震の揺れを再現することは、数千万円する起震車でも出来ませんし、固定された机と椅子に座り、落ちてくるもの倒れてくるもの移動してくるものない状況での揺れ体験は、ただの楽しいアトラクションになってしまう場合が多いので、かえって地震に対する油断を与えかねません。それよりも、普段いる場所での揺れ体験によって、地震被害を身近に感じさせることで、より地震を我がごとにするのが大切です。また、体験を通じた客観・主

観から、これまでの訓練や自分の中の常識に誤りがないか、足りないものがないか、に気づくことも大切です。(人災を防ぐことにもつながる)

#### ●揺れ体験による効果例

- ・事前対策による被害軽減をどこまで行うべきかが分かる。
- ・大きな揺れに立ち向かう心と体づくりから、最後まであきらめない姿勢ができる。

#### ●実践する際のポイント

一般的には、震度4までは無被害、震度5弱以上で物的被害が出ると言われています。物的被害に対して、人が対応できなければ、人的被害になります。つまり、園での地震避難訓練で訓練しなければならない場面は、震度5弱以上の揺れということになります。(無被害を経験しても油断を生むだけ)

##### 【震度5弱～5強】

多くの人が、心理的に動きたくないと感じる

##### 【震度6弱】

子どもと保育者の状態→立ってられない。

転倒・移動物の状態→固定していないものの多くが、移動したり倒れたりする。

建物の状態→耐震性の低い建物は倒れるものもある。

##### 【震度6強～7】

子どもと保育者の状態→這わないと動けない。

転倒・移動物の状態→固定していないものの殆どが、移動したり倒れたりする。

建物の状態→耐震性の低い建物は倒れるものが多くなる。

→耐震性が高い建物も、亀裂や一部損壊が起こる場合がある。

#### ※ワンポイントアドバイス

揺れ体験は、大地震の際の“自分の状態”を知るものです。

実際の地震では、そこに物的被害が同時に発生しますので、揺れるマットの上に固定できない大型遊具や、棚などを載せ、揺らしてみると、良いと思います。事前対策の大切さや、お片付けの大切さも教えてあげてください。

また、僕らがやるときは、年少以上であれば、重たいものを手で持たせ、『揺れている間にこれが落ちてくるから、先生が「逃げて」って言ったら、マットから逃げ出すんだよ』という感じで、やっています。

## ②天井はすぐに落ちてくるものなのでしょうか？

まわりが見える状況で机にもぐった方がいいのか、外にいる子は部屋に戻ってこない方がいいのでしょうか。

⇒日本の建物場合、ほとんどの天井は、落ちるのに時間がかかるようにつくってあります。また、実際には、落ちるまでに素人が見ても分かるぐらいの予兆があります。ダンゴムシのポーズなんかしていたら、その誰が見ても分かるような予兆を見逃すことになります。

ポイント→相手の力と自分の力を比べる

「机にもぐる」を教える場合、机でも勝てる相手しかいなければ、「机にもぐる」でも良い。ということになります。でも、その場合「もし机では勝てない相手だったらどうする？」ということは教えたほうが良いですね。例えば、2歳児までは机の下がゴールの訓練、年少からは、一度は机にもぐる、次に先生の合図でロッカーに移動、低い姿勢でしがみついて、周りを見る等。

その際、目や耳を働かせ危険を察知する訓練、「天井を見て」「ガラスを見て」等の声掛けや、音を立てる（窓ガラスや遊具をガタガタ揺らす）ことも効果的だと思います。

子どもへの説明は、理解度に合わせる必要がありますが、教える保育者自身は納得して教える必要がありますね。

③子どもたちが被害を感じられる（考えられる）ようにするには、実際に体験することが一番かと思いますが、子どもたちがただ単に「災害が怖い」と怖がるだけでなく、危険性や被害の実感ももてるようにするために、子どもたちに伝える時に意識されているポイントや押さえるべき点などあれば、教えていただきたいです。

⇒危機感を与えることは重要ですが、その危機を回避する方法や危機による不安を解決する策があることを教えるように心がけています。

そしてその策は、自分で考え行動する（努力が必要）というもので、先生任せではいけないということを理解させることが大事ですかね。（もちろん成長の段階に合わせてですが）

“戦う相手に合わせる”とは、

事前に準備するのはもちろん、「時には先生の言葉をよく聞くことだったり。」「時には周囲をよく見ることだったり。」する。作戦は戦う相手によって変わる、災害の中で、戦う相手は変化します、机の下や、ダンゴムシがゴールではなく（必殺技教育ではダメ）、変化に対応できる子どもをつくることを心掛けて下さい。「変化に対応する子ども」も、文部科学省の言う「生きる力」の一部ですね。

## 研修会に参加された方からのご感想

- 保笑会に続き、2回目の研修でした。ありがとうございました。予想の震度、揺れの時間を調べて、それに沿った訓練を考えたいと思います。
- 江夏先生のお話を伺い、突きつけられるような思いがしました。早速、相手の力を知ること、すぐに始めます。ありがとうございました。
- 本日は急な参加となりましたが、おもいきって連絡させていただいてよかったです。いままでの常識が怖いものであったことをしれて意識をあらためていくことになりました。ありがとうございました。
- 自分が大切なことを知らなかったことに気づかされました。相手も自分の力も知るよう努めます。
- さっそく避難訓練を見直します。職員にも緊急に本日のことを伝えなければ！ありがとうございました。
- 災害にいかに無知であるかを痛感しました。避難訓練を一から見直さなければと思います。職員と共有し避難訓練も見直します。本当に貴重なお話ありがとうございました。
- ありがとうございました。想定やハザードマップ等をしっかり調べ直したいと思います。
- 実際にダンゴムシのポーズをやめ、自分で考えさせるようにすると、危険な場所がたくさんあり、どこが安全なのか職員も迷ってしまう現状です。遊びに応じて棚なども動かすことが多いです。
- 減災教育という言葉を以前から関心があり、お話を伺うことができたことがうれしく思います。知識のこと、考え方など、学びが多くありました。相手の力を知ること、自分の力を知ること、すぐに調べてまずは知識を身につけたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ありがとうございました。まずは自分の園の災害を知り、予防を図るとともに、避難訓練について根底から見直したいと思います。
- 今日は貴重なお話をありがとうございました。教員を10年以上続けていますが、ここま

で具体的な防災減災、避難訓練のお話を聞くことは初めてでした。教員になったからには、必須の研修だと思います。自分の園の状況を知ること、転勤があった時にはその先の園の状況を新たに知って対策を立てること、日々アップデートすることが必要だと感じました。ありがとうございました。

●江夏先生、本日はご講演いただきありがとうございました。

私は今年教員1年目なのですが、災害について自分の知らないことばかりで、加害者になるリスクを感じ、今日から学んでいこうと思いました。

●本日は研修ありがとうございました。大きな地震がいつか必ず起きると子どもの頃から言われている地域に住んでいますが、私の地域では、子どもの頃から当たり前に、ダンゴムシポーズを教えられてきて、今でも変わらずに避難訓練で行っている園が多いです。

数年前に他の先生と話をした際、大きな揺れの場合、ダンゴムシポーズでは命を守れないことを研修で習ったと聞きました。避難訓練について、それまでは震度を想定することすらしていませんでしたが、その時に勤務していた園では、震度を想定して行う避難訓練に変えました。でも、今日の話を知り、命を守るための知識がまだ全然足りていなかったなと反省をしました。

気になってはいましたが、説得力のある説明ができずにいたので、今回教えていただいたことや、資料を参考に、自分でも調べてみて、変えていきたいと思います。